

東北復興 PSW にゆうす

東日本大震災から3年が経ち復興支援本部も設立から2年が過ぎました。今一度真に必要なものは何か、私たちは何ができるのかを問い直す時期に来ていると思います。被災された方々に寄り添いつつも去年一昨年とは違う支援の仕方をどう作り上げていくか、これが正解というものは無いかもしれませんが多くの方々と共に歩んで行きたいと思います。本部活動の一つとして次年度は「被災地支縁ツアー」を予定しています。福島では東京・千葉・神奈川の方にお越し頂きましたが、東北3県を見て頂きたい。東北復興の過程を皆さまと共有できたらと思います。(本部員 菅野正彦)

節目の時に思いを新たに…

今回は(公社)日本精神保健福祉士協会会長で、東日本大震災復興支援本部長でもある柏木一恵のメッセージをお届けします。

ありがとう復興支援



全国大会物販の
チラシも見てね!
* 機関誌の裏表紙に
載ってます

町を呑み込み、多くの命を奪い、暮らしを破壊し、多くのひとを悲痛のどん底に陥れた“あの日”から3年が経過しました。原発事故で見通しのない避難生活を続ける人々の上にも、いまだ仮設住宅での生活を余儀なくされている人々の上にも、多くの産業が甚大な被害を受け、そのため失業や休職で厳しい生活にさらされている人々の上にも、癒すことのできない心の傷を負って日々を生きている人々の上にも、ひとしく月日は流れました。けれども時の刻みは人それぞれであり、もう3年と思う人もあれば、まだ3年とを感じる人もいるでしょう。復興が加速化している地域もあれば、いまなお荒涼とした地域もあります。厳しい冬に春の萌しを感じとることができる人もいれば、希望を持つことすら封印している人もおられるでしょう。私たちはどれだけその地に思いを馳せ、その地で生きる人の気持ちに寄り添うことができているのでしょうか? 多忙な日常や次々起こる様々な災害によって、東北で起こった大きな悲劇が風化しつつあると思うのは私の杞憂にすぎないのでしょうか?

“あの日”からちょうど3ヵ月たった2011年6月、和歌山大会でわたしたちは東日本大震災復興支援宣言をいたしました。今その一節を思い出します。『精神障害者はもとより精神保健福祉士の支援を必要とする人々は今後さらに増えていくでしょう。彼らを支援するため奔走する現地の仲間を継続的に支える仕組みが必要になってきます。組織基盤の強化やソーシャルアクション、他団体との連携など組織的な取組が期待されてきます。今こそ精神保健福祉士の底力を見せましょう。その力と思いを東北の地に、東北の仲間へ届けましょう。つながる力を具現化しましょう。日本精神保健福祉士協会と構成員はその総力を結集して、被災地の人々の全人的復権をめざし、現地で戦う仲間と共に忍耐強く苦難を乗り越えていくことをここに宣言します』

振り返って協会として、この宣言どおりに力を尽くしたのか、思いを被災地に届けることができたのか、限られた資源の中で、個別支援はもとより地域の再生に奮闘する支援者を支援するという復興支援本部の意義を全うできているのか、真摯に問わなければならないと思います。その検証の中から日本精神保健福祉士協会が担わなければならない責務を確認し、新たな課題に向かって挑戦していかなければと、この節目の時に思いを新たにしています。

公益社団法人日本精神保健福祉士協会東日本大震災復興支援本部長 柏木一恵

前回紹介しきれなかった四国・中国ブロックの方々からの心温まるメッセージをお届けします。

☆マークは県花のイラストです☆ 愛媛県(みかんの花) 高知県(やまもも) 山口県(夏みかんの花)

☆ 愛媛県精神保健福祉士会 森本しげみ



福島空や南相馬市の景色、そして福島でお会いした方々の顔がいつも私のどこかにあります。あの時、福島第一原発から20キロ圏内だったために立ち入ることのできなかつた小高区に昨年のお盆に行きました。夜になるとまだ立ち入り禁止です。ここは、震災後にみた景色とまだ何も変わっていませんでした。崩れたままの商店街、まだ水が引いていない海岸までの道。放置されたままのあらゆる無念を思います。愛媛でできることをいつも探しながらこれからも東北の応援と復興を願っています。

(*。*) 全国各地から頂戴しております温かなメッセージを皆様と分かち合いたく、なるべく速やかにお伝えして行きたいと思っています。しかしながら、この「東北復興PSWにゆうす」発行のタイミングと必ずしも一致しない場合もあります。ご理解をお願いいたします。

◆お知らせ◆

PSWにゆうす第8号でお知らせをした、東日本大震災復興支援活動助成金の第1期募集が終了しました。福島・群馬・神奈川3県の精神保健福祉士協会より応募があり、すべて承認されました。活動内容については次号以降で紹介させていただきます。

♥～復興支援活動募金報告～♥

501,393円(2013(H25)年4月～2014(H26)年2月末日現在)皆様からお預かりした真心のこもった募金は、復興支援に携わる仲間への支援に役立ててまいります。引き続きご協力のほど、よろしくをお願いいたします。

☆皆さんからのメッセージを募集します☆

本誌では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。全国どなたからのメッセージでも構いません。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。本誌へのご意見・ご感想も大歓迎です。本紙面や協会ホームページにてご紹介させていただきます(原則として投稿者氏名以外の個人情報掲載いたしません)。お届け先は下記復興支援本部へのFAXもしくはE-mailにてお願いいたします。

E-mail: office@japsw.or.jp * 題名に「PSWにゆうすについて」とご記入をお願いします。

☆ 高知県支部代議員 眞土和之



被災地で活動されている皆様、遠く離れた高知県ですが今後の復興を願っています。

高知も南海大地震が予想されています。そのなかでPSWとして何ができるかを考えることが増えました。時間がたつなかでそういった思いが風化しないよう私たちにできることを考え行動していきたいと思います。

*メッセージをいただいた時点での役職等を記載しております。

☆ 山口県支部 丸田育美



地元会員の皆さんと立場は違えども、3.11の出来事は私たちの胸に大きく刻まれました。その中で、日本人というアイデンティティに加え、精神保健福祉士という専門性を持つ全国の会員が東北に向ける思いは大きいと感じます。

山口県においては、以前より都市交流のあった自治体を中心として、職員の派遣や山口に児童を迎えてのレスパイトケアなどに継続して取り組み、福祉関係職に限らず県民が東北の復興に関心を寄せています。地元で活動される会員お一人おひとりの心の復興に向けて、山口より思いを馳せています。「つながろう! JAPAN～PSW!!」

☎復興支援本部「ほっと phone」

TEL070-6450-2615 小関本部長代行が

お応えします。お寄せいただいた声は、

復興支援に生かしてまいります

第10号 2014年3月15日発行

発行：公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援本部

〒160-0015 東京都新宿区大塚町23-3 四谷オーキッドビル7F TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993

復興支援本部 URL: <http://www.japsw.or.jp/f-honbu/>